

「総合理学療法学」執筆規程

1. 論文の構成

1) 「研究論文」「症例研究」の構成

- (1) 標題 (表題) : 内容を具体的かつ的確に表し, できるだけ簡潔に記載する。原則として略語・略称は用いない。用語は本文に用いた言語とし, キーワードを含むように配慮する。
- (2) 著者名 : 著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。審査開始後の著者の変更は原則認めない。
- (3) 要旨 : 「目的」「方法」「結果」「結論」について項を分けて簡潔に記載する。英文の要旨も記載する。
- (4) キーワード : 3 ~ 5 つとする。標題および要旨より抽出し, 不十分な場合は本文から補充する。国際的に広く通用する言語 (英語など) または日本語で記載する。
- (5) 本文 : 本文は原則以下の項目に沿って本文を構成する。
 - ①はじめに : 研究の背景, 臨床的意義, 研究の目的, 取り扱っている主題の範囲, 先行研究との関連性などを記述する。
 - ②対象および方法 : 用いた研究方法について第 3 者が追試できるように記述する。倫理的配慮に関して, 倫理審査委員会による承認について明記する。
 - ③結果 : 研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する。データは, 検証, 追試を行いやすいように図 (グラフ) よりも表にして数値で示す方が望ましい。
 - ④考察 : 結果の分析・評価, 今後の課題などを記述する。
 - ⑤結論 : 研究で得られた結論を 200 ~ 300 字で簡潔に記述する。
 - ⑥利益相反 : 利益相反の有無について記載する。ありの場合は, 著者ごとに記載する。
例) 利益相反 : 開示すべき利益相反はない
例) 利益相反 : 学会太郎 : 本研究に関する費用は, ○○○ (企業名・団体名) が (一部) 負担した。学会花子 : なし。
 - ⑦謝辞 : 著者資格に該当しない研究への貢献者, および助成金受給等について記載する。
- (6) 文献 : 引用文献のみを, 本文の引用順に記載する。(記載方法は下記参照)
- (7) Appendix (補遺) : 任意項目であり, 必要に応じて本文の内容を補足する。もしくは載せられなかった詳しいデータ等を記載する。この場合, 本文中の関連箇所に「Appendix 番号」を記載すること。Appendix は電子付録として扱われ, 紙面に掲載される際には印刷されなためあくまでも補足的なデータとして使用する。本文中の論旨に関わるような内容については, 本文に図表として投稿すること。

2) 「症例報告」の構成

- (1) 標題 (表題) : 内容を具体的かつ的確に表し, できるだけ簡潔に記載する。原則として略語・略称は用いない。用語は本文に用いた言語とし, キーワードを含むように配慮する。
- (2) 著者名 : 著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。審査開始後の著者の変更は原則認めない。
- (3) 要旨 : 「はじめに」「症例紹介」「経過 (結果)」「考察・まとめ」について項を分けて簡潔に記載する。
- (4) キーワード : キーワードは, 3 ~ 5 つとする。標題および要旨より抽出し, 不十分な場合は本文から補充する。国際的に広く通用する言語 (英語など) または日本語で記載する。
- (5) 本文 : 本文は原則以下の項目に沿って本文を構成する。
 - ①はじめに : 対象を選択した理由や根拠を記述する。
 - ②症例紹介 : 症例の基本的事項 ; 基本情報 (年齢, 性別等), 病歴 (現病歴, 必要であれば既往歴, 家族歴, 社会生活歴), 臨床検査所見, 理学療法評価結果, 理学療法方針・介入内容を簡潔に記述する。倫理的配慮およびプライバシーの保護に関しては, 投稿規定「研究倫理」の記載内容に従うこと。
 - ③経過 (結果) : 介入経過 (結果) を簡潔に記述する。
 - ③考察 : 過去の報告との類似点や相違点について比較検討を行い考察する。今後の治療の展開・方針転換や研究への広がりがある場合は, それらの提案についても記述する。
 - ④まとめ : 症例を通じて明らかになった点を簡潔に記述する。
 - ⑤利益相反 : 利益相反の有無について記載する。ありの場合は, 著者ごとに記載する。
 - 例) 利益相反 : 開示すべき利益相反はない
 - 例) 利益相反 : 学会太郎 : 本研究に関する費用は, ○○○ (企業名・団体名) が (一部) 負担した。学会花子 : なし。
 - ⑥謝辞 : 著者資格に該当しない研究への貢献者, および助成金受給等について記載する。
- (6) 文献 : 引用文献のみを, 本文の引用順に記載する。(記載方法は下記参照)
- (7) その他 : 編集部の判断により, 症例検討の内容によっては「研究論文」の構成で本文の再構成を指示する場合がある。

2. 投稿原稿の構成

表紙頁，要旨，本文，文献，図表，図表の説明文，Appendix（任意）で構成する。
原則として，マイクロソフト Word ファイルとし，ファイルを以下の通りに分けて提出する。

【研究論文】【症例研究】

1. 表紙頁，2. 和文要旨（キーワード含む），3. 英文要旨（keyword 含む），
4. 本文（文献含む），5. 図表（説明文含む）

【症例研究】

1. 表紙頁，2. 和文要旨（キーワード含む），3. 本文（文献含む），
4. 図表（説明文含む）

3. 原稿の規程分量

- 1) 「研究論文」「症例研究」は，和文要旨・英文要旨・文献・図表を含み，原則として刷り上がり 8 頁（400 字詰め原稿用紙 40 枚・16,000 字相当）以内で執筆する。図表は，刷り上がり 1/4 頁大のもの 1 個を 400 字として換算する。
- 2) 「症例報告」は，要旨・本文・文献・図表（5 枚以内）を含み，原則として最大刷り上がり 4 頁（400 字詰め原稿用紙 24 枚・9,600 字相当）以内で執筆する。

4. 表紙頁

- 1) 論文には表紙頁をつける。
- 2) 表紙頁には，①希望する記事の種類（研究論文，症例研究，症例報告），②標題，③著者名（共著者を含めて記載），④所属名（共著者を含めて記載），⑤責任著者連絡先（氏名，所属，会員番号，郵便番号・住所・電話・Email），⑥論文ページ数を記載する。

5. 要旨

全ての論文には和文の要旨（400 字程度）をつける。また，研究論文・症例研究には 250 語程度の英文要旨をつける。英文要旨は，ネイティブ・スピーカーの校閲を著者自身の責任で受けること。要旨にはキーワード（3～5 つ）も記載する。

6. 本文

- 1) 余白 25 mm，40 文字×30 行のレイアウトで，フォントはMS明朝体，標準，10.5 ポイントを使用する。英数字は「日本語と同じフォント」とし，数字は半角とする。
- 2) 文章は楷書・横書き，口語体，現代かな遣い，数字は算用数字，単位は国際単位系（SI 単位）を用いる。
- 3) 章は 1，2…，節は 1)，2) …，項は (1)，(2) …，以下 ①，②…とする。
- 4) 句読点は，日本文の場合は全角の「，」，「。」を使用し，英文は半角の「，」，「.」を使用する。

- 5) 引用文献は、引用した内容の直後、著者名の後、もしくは文章全体の場合は、「,」や「。」の前に付ける。引用文献記載数字は半角上付きとする。
例) 大阪ら¹⁾により・・・, 例)・・・である¹⁾。
- 6) 複数の引用文献の記載は以下のようにする。
例) 1, 2) 1, 3) 1-5) 1, 4, 5) 1-3, 5-7)
- 7) 和文本文内の括弧は全角を用い、括弧の前後に半角スペースは入れない。
例) (図参照), 理学療法 (physical therapy),
- 8) かな・漢字・英数字と符号の間は、半角スペースを入れる。
例 1) $r = 0.77$ 例 2) $p < 0.05$ 例 3) $n = 20$
例 4) $a + b$ (数式の場合)
- 9) 以下のような単位、および連続することで意味をなす符号は例外的に半角を入れない。
なお、下記の例外以外は、原則半角を入れる。
例 1) 70%, 37°C, 90°, 5N 例 2) +1, -2

7. 図表

- 1) 図・表は本文に出てくる順に、それぞれ一連番号をつける。グラフィック表現および写真は図に含める。図の番号および表題は図の下に、表の場合は表の上につける。1頁に一つの図もしくは表を添付する。図表の説明(キャプション)は表題の下に記載する。スライド図・表は投稿用に作成し直す。
- 2) 図・表の転載は投稿前に著者の責任で転載許可をとり、投稿時に許可書を提出する。他書(他誌)から図表等を転載する場合は、原稿の一部となるため、論文著者の責任において著作権者に許諾申請を行い、使用した図表にはその旨を記載し、出典を明記する。Webサイトに掲載されている著作物(写真など)についても同様に扱う。無断転載は著作権の侵害となる場合があるため注意する。以上について編集部は一切の責任を負わないものとする。

8. 文献

- 1) 引用文献は、本文の引用順に並べる。
- 2) 引用文献の著者名が3名以上の場合は、最初の2名を記載する。その他は、「他」または「et al.」とする。

3) 雑誌名の記載

【和文雑誌】原則として略称は用いない。

【英文雑誌】略称を用いてもかまわない。略称は、公の省略法 (Index Medicus など) に従う。

例 1) American Journal of Medicine → Am J Med

例 2) BRITISH MEDICAL JOURNAL → BMJ

4) 記載方法

【雑誌】 著者名：論文タイトル，雑誌名，発行年（西暦）；巻：ページ（最初－最終）

1) 宮本謙三，竹林秀晃，他：加齢による敏捷性機能の変化過程— Ten Step Test を用いて—。理学療法学。2008；35：35-41.

2) Tompkins J, Bosch PR, et al.: Changes in functional walking distance and health-related quality of life after gastric bypass surgery. Phys Ther. 2008；88：928-935.

【単行本】 著者名：書名(版)．編集者名，発行所名，発行地，発行年（西暦），ページ（最初－最終）

3) 名郷直樹：EBM の現状と課題。エビデンスに基づく理学療法活用と臨床思考過程の実際。内山靖（編），医歯薬出版，東京，2008，pp. 18-38.

4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap 4. In: Morrissy RT and Weinstein SL (eds): Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006, pp. 97-112.

5) 信原克哉：肩-その機能と臨床-（第3版）．医学書院，東京，2001，pp. 156-168.

【翻訳本】 原著者名：書名(版)．訳者名，発行所名，発行地，発行年（西暦），ページ（最初－最終）

6) Dale Avers, Marybeth Brown：新徒手筋力検査法（原著第10版）．津山直一，中村耕三（訳），協同医書，東京，2020，pp. 15-20.

7) Neumann DA：筋骨格系のキネシオロジー（原著第2版），嶋田智明，有馬慶美（監訳），医歯薬出版，東京，2013，pp. 455-499.

【Web サイト】 著者名（機関名）：Web ページ名．URL，（アクセス日）

8) 内閣府：令和3年版高齢社会白書（全体版）．<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/html/zenbun/index.html>，（2021年9月2日引用）

9) World Health Organization: Global recommendations on physical activity for health. <https://www.who.int/publications/i/item/9789241599979>，（2022年4月14日引用）

9. 数量の単位

単位は原則として国際単位系（SI 単位）を用いる。

（長さ：m, 質量：kg, 時間：s, 温度：℃, 周波数：Hz など）

10. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳を記載する。

例) Femoro-tibial angle (以下, FTA)

膝関節前面痛 (anterior knee pain: 以下, AKP)

11. 機器名の記載法

機器名は、「一般名（会社名，製品名）」で表記する。なお，統計ソフトは「製品名，バージョン番号，会社名」で表記する。

【機器名】 一般名（会社名，製品名）

例) 筋電図解析ソフトウェア（キッセイコムテック社，BIMUTAS-Video）

超音波測定装置（アロカ社，Prosound- α ）

【統計ソフト】 製品名，バージョン番号，会社名

例) SPSS Statistics, ver.19, IBM 社

12. 倫理審査の記載法

投稿原稿では委員会名（施設名等）は記載せず，承認番号のみの記載とする。掲載決定後の最終原稿で，委員会名および承認番号を明記する。

13. 謝辞

文中で謝辞を述べる際には，関係者同士が事前に確認し合い了解を得ることを前提とし，編集部はこれに関する一切の責務を負わないものとする。また当該研究の実施にあたって研究費助成を受けた場合は，その資金名およびその番号を記載すること。なお，投稿者の特定に繋がらないように投稿時には空欄とすること。

14. その他

1) 必要がない限り表に縦線は使用しないこと。

2) 本文には行番号およびページ番号を必ず記載する。

(2022.10.12)